

1. 研究主題 問いの解決に向けて、共に考えを創り上げていく子どもの育成
—悩み、ひらめき、つながる学びを楽しむ授業づくり—

2. 研究の具体

学ぶ楽しさを児童が実感するために、主体的に学ぶための「問い」づくりと協働的に学ぶための「対話」について実践に取り組んだ。そして、その学びについて「振り返り」で児童が捉え直すことをめざした。

(1) 問いづくり

①教材の工夫と問題との出合わせ方の工夫



【3年「円と球」の実践 違和感を抱かせる課題】
自分たちで考え、話し合い、解決に向かっていく授業にするために、課題に対する子どもたちの反応やつぶやき、感じた疑問を表出させる。

②問いからめあてをつくることの習慣化



【2年「かけ算(2)」児童の問いから学習課題へ】
課題に対する個の問いから本時の課題設定につながっている。また、学習の中で生まれた新しい問いを取り入れ、自分や学級全体の思考の深化や主体的に問いを追究する姿をめざした。

(2) 対話

①必要感のある対話

なぜその解き方がよいのかという他者の意見と比較したり、自分の考えを見つめ直したりする対話をしていくことで、自分たちの考えの妥当性や有効性に気付かせる。

②対話の形態

自分の問いを解決するために必要な人と対話をする。(ペア・グループ・自由対話)



【5年自由対話（左）グループ対話（右）の様子】

(3) 振り返り

対話を通して、協働的に学んだことを、個の学びとして認識させる。

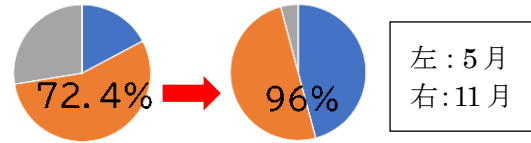
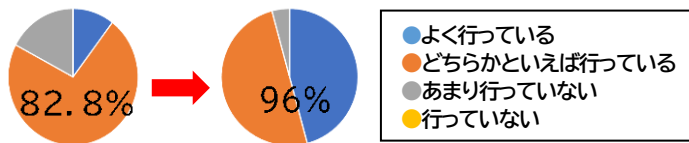
- ①つながる学び 何を学んだか と どのように学んだかという学びと振り返りの一体化
- ②つながる問い 本時の学習で生まれた新たな問いを次時の導入に活用
- ③つながる生活 学習内容を実生活につなぐ

3. 研究の検証と改善の手立て

今年度、5月と11月に実施した教員対象アンケートでは、①②の問いの肯定的な評価の割合が向上した。児童の主体性を引き出すための問いづくりやその問いを解決していくための対話について全教員が意識して実践することができた。

①児童生徒の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。

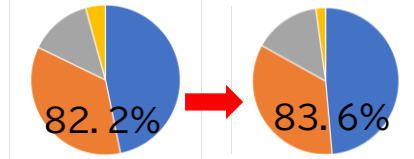
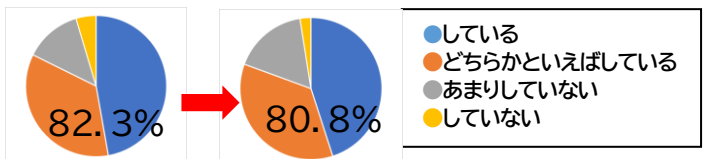
②普通の授業で、児童生徒の学び合う場を取り入れていますか。



今年度、5月と11月に実施した児童対象アンケートでは、①②の問いの肯定的評価が高評価のまま維持されていた。教員の意識が変わったことで、学習内容が難しくなる学年後半でも「問い」「対話」「振り返り」の学びを通して、主体的・協働的に学ぶことができています。

① 授業で自分の目標をもって取り組んでいる

② 話し合い活動で自分の考えを広げたり深めたりしている



「問い」「対話」「振り返り」の学習スタイルは、主に算数科を中心に行ってきた。成果が見えてきたので、他教科の授業でも円座スタイルとして定着させ、さらに自己選択ができる場面を増やしなが、主体的に学習を楽しむ児童の意欲を引き出していきたい。